音楽とSDGs〜未来と出会うために

「音楽は翻訳を必要としない共通言語」とバッハが語り、そして「魂が魂へ語りかけるのだ」という言葉を残しています。

そして音楽は多くの人々によって、私たちの時代に繋がれてきました。

2015年、国連から「SDGs」持続可能な開発目標が、世界へ向けて提案されました。多くの人々にとって馴染みの薄い言葉でもあり、活動自体が知られる機会が少なかったのですが、とても社会にとり大事な考え方です。

次から次に新しい物や情報に溢れる現代社会の中で、未来を想像して行動をしていく、という呼びかけでもあるようです。

日本でも次第に「持続可能」という考え方に、注目が集まり始めています。

そして正しくクラシック音楽が何百年もの間、引き継がれてきた、という事実はこの思想に最も寄り添うものです。

私たちはこれまでアルゲリッチと共に、社会の中で音楽が出来ることを模索しながら様々なことを試みてきました。

その中で特に大事にしてきたことは「心」の育みです。

益々進む機械化やITによる社会の変化に、人本来の情感や繋がりが次第に希薄になっているように多くの方々も感じておられるのではないか、とも思います。

勿論音楽だけでこのような社会問題を変えることはできませんし、皆さまご存知のように過去を見る時、美術を学び、ワグナーを愛したヒトラーもいます。

しかし、2020年に生誕250年となったベートーヴェンやバッハが音楽に求めた本質は色褪せることなく、一層その音楽は光輝き力強く、また深く心に訴えかけてきます。

シラーの詩に共感をしたベートーヴェンが、人々に訴えかけている人類愛と連帯は、今ほど必要な時はありません。

世界に拡がったコロナウイルスで表面化した人種差別等、いつの時代でも同じ過ちを人類は繰り返しています。

アルゲリッチもこの音楽祭から、社会と繋がり「人」が繋がることの素晴らしさを感じていただきたい、と願っています。

私たちは音楽の持つ魅力を、アルゲリッチや集ってくださる多くの音楽家の方々が説得力を持って伝えてくださることに、力づけていただきながら、その先にある芸術ー音楽の本質を皆さまと分かち合い、未来へ引き継いでいきたい、という思いを強くもっています。

魂から魂へ、そしてベートーヴェンの「聖なる芸術への献身と、他者を幸福にするための行い」に近づくために。

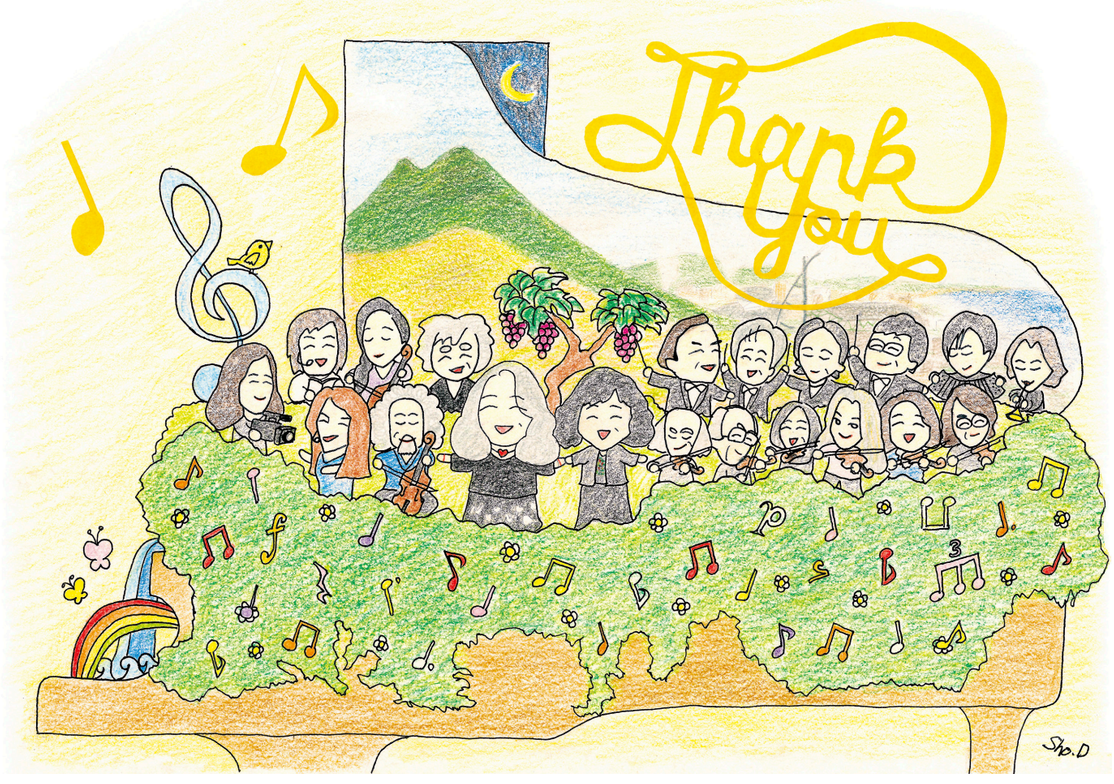
別府アルゲリッチ音楽祭総合プロデューサー
伊藤京子

QUEEN♪アルゲリッチ
~LOVE AND TRUST~
愛と信頼のハーモニー

FM 大分 クラシック音楽番組
QUEEN♪アルゲリッチ
~LOVE AND TRUST~
愛と信頼のハーモニー
毎週金曜日
20:00 - 20:30 放送中
伊藤京子、西嶋しのぶ(FM大分)
http://www.fmoita.co.jp/
Https://radiko.jp/

［お問合わせ］
公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団
TEL 0977-27-2299
（受付時間）10:00~18:00（定休日）土・日・祝日
FAX 0977-27-2301
E-mail: info@argerich-mf.jp
〒874-0903
大分県別府市野口原3030-1
しいきアルゲリッチハウス

最新情報はこちらでチェック ▶
https://www.argerich-mf.jp

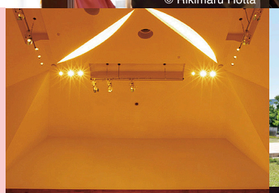


アルゲリッチと共に紡ぐ大分の未来
音楽が社会のために出来ること

Argerich's Meeting Point

公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団

豊かな地域社会の創造や芸術文化の発展に寄与するため2007年3月設立。
世界的ピアニスト マルタ・アルゲリッチが総裁を務め、
別府アルゲリッチ音楽祭総合プロデューサー・しいきアルゲリッチハウスプロデューサーの
伊藤京子の企画を基に事業を展開している。



別府アルゲリッチ音楽祭

音楽祭の正式名称「Argerich's Meeting Point in Beppu - アルゲリッチの出会いの場」には、マルタ・アルゲリッチと伊藤京子の「人が出会うことで多くのことが変わり、未来が開ける、幸せな出会いを多くの人々へ」という深い思いが込められています。

マルタ・アルゲリッチと大分のつながり 別府アルゲリッチ音楽祭の歴史

大分は大友宗麟の時代から、西洋の息吹に包まれた場所でした。初めて西洋音楽を日本人が学び演奏した歴史が刻まれています。そして460年の時を経て、この壮大な歴史のロマンは、世界の頂点に立つ音楽家マルタ・アルゲリッチへと導かれていったのです。

西洋音楽発祥記念碑（大分県庁前）

- 1977年 ► ドイツミュンヘンにて、マルタ・アルゲリッチと伊藤京子が出会う。
- 1994年 ► 中村太郎別府市長(当時)より「別府から世界発信を本気でしたい」との要望を受け、伊藤京子の紹介でマルタ・アルゲリッチが別府ビーコンプラザ・フィルハーモニーホール名誉音楽監督に就任。
- 1995~1997年 ► 別府アルゲリッチ音楽祭プレコンサートを開催。
- 1996年 ► マルタ・アルゲリッチが別府アルゲリッチ音楽祭総監督に就任。
- 1997年 ► 大分県よりマルタ・アルゲリッチに外国人名誉県民証が贈られる。
- 1998年 ► 自らの名前を冠した世界で初めての音楽祭「第1回別府アルゲリッチ音楽祭」開催。
- 1999年 ► 伊藤京子が音楽祭総合プロデューサーに就任。
- 2005年 ► 優れた芸術の世界的な創造者たちを顕彰する第17回高松宮殿下記念文化賞を受賞。
  ► 日本における音楽祭の功績が認められ、マルタ・アルゲリッチが日本国から旭日小綬章を受章。
- 2011年 ► こどもたちの健全育成、音楽文化の振興に貢献した功績で、伊藤京子が大分県功労者表彰を受賞。
- 2015年 ► 名誉理事 椎木正和氏より贈られた「しいきアルゲリッチハウス」が別府市に竣工。
- 2016年 ► 長年の音楽活動、アルゲリッチ芸術振興財団の活動が認められ、マルタ・アルゲリッチが日本国から旭日中綬章を受章。
  ► 地方都市と世界を音楽の力でつなぎ、世界的に注目される音楽祭に成長させた功績により、伊藤京子が「JASRAC音楽文化賞」を受賞。
- 2018年 ► しいきアルゲリッチハウスに皇太子同妃両殿下(当時、現天皇皇后両陛下)のご来臨を賜る。
  ► 第20回を記念して音楽祭初のヨーロッパ・ローマ公演を開催。
- 2019年 ► 第21回音楽祭に上皇上皇后両陛下のご来臨を賜る。
- 2021年 ► 大分県はアルゲリッチの誕生日の6月5日を「マルタ・アルゲリッチの日」と制定。
- 2022年 ► 大分県がアルゲリッチ総監督に「県民栄誉賞」を授与、日本を代表する音楽祭に成長させ、大分の名を世界へ広めたこと。また、大分県の芸術振興に多大なる功績を残したことが評価された。

別府アルゲリッチ音楽祭の成果

- 大分県におけるクラシック音楽の鑑賞機会や鑑賞者を増加させ、県全体の文化度、発信力の向上。
- 札幌のPMF、松本のセイジ・オザワ・フェスティバルと並び、日本三大音楽祭のひとつと評価されている。
- 大分発のこの革新的な取り組みは、アルゼンチン・ブエノスアイレス、スイス・ルガーノ、ドイツ・ハンブルクなど数々の音楽祭へと広がり、世界の音楽界へも多大な影響を与えている。

別府アルゲリッチ音楽祭の経済効果

音楽祭の開催は、旅行や宿泊ニーズをはじめ、飲食サービス、他の観光施設への消費活動に及ぶ。「アルゲリッチ」の名を冠する音楽祭の開催地、世界中のクラシックファンにとって聖地となり、しいきアルゲリッチハウスを中心に音楽祭の軌跡をめぐるルート、音楽と大分県の様々な魅力(温泉、景観、食など)を組み合わせることで、文化・芸術面のイメージ向上が期待される。
音楽祭20年の総合経済波及効果は301億34百万円。
パブリシティ効果は13億87百万円と推計される。

〔 調査報告:株式会社 大銀経済経営研究所 〕

フィルハーモニーホール名誉音楽監督に就任(1994年)

前大分県知事の平松守彦氏と懇談(1995年)

第17回 高松宮殿下記念世界文化賞の受賞式(2005年)
© 日本美術協会

日本政府より旭日小綬章を授与(2007年)
© Rikimaru Hotta

津久見樫の実少年少女合唱団と共演(2011年)

広瀬知事から椎木正和氏へ感謝状の贈呈(2015年)
© Rikimaru Hotta

しいきアルゲリッチハウス

実業家で財団名誉理事の椎木正和氏による約5億円のご篤志で建設された、世界中でここにしかない唯一無二の「しいきアルゲリッチハウス」。

アルゲリッチがつなぐ未来への道

芸術の創造と発信の場として、クオリティの高い演奏会や教育活動、講演会を開催。ハウスにあるアルゲリッチの手型は幸せのシンボル、皆さまへ幸せを運びます。

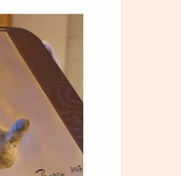
© Rikimaru Hotta

ピノキオ コンサート®〜大人とこどものための音(おん)・学(がく)・会(かい)

教育活動－未来へ向けて人々の豊かな心を育むために
こどもたちには音楽を通じて想像力を、おはなしを通じて心の成長を育み、大人たちには穏やかな社会をつくるためにどんなことが出来るのか一緒に考えていく「演奏とおはなし」のコンサート。
これまでに４万人以上のこどもたちへ音楽を届けている。〔 2022年現在 〕

© Rikimaru Hotta

アルゲリッチワイン



2011 年、アルゲリッチは東日本大震災からの復興を願い、宇佐市安心院にて「希望の樹 Argerich's Tree of Hope」と名付けたブドウの苗木を植樹。
アルゲリッチが奏でる音楽を聴かせて大切に育てられたブドウは「安心院ワイン 希望の旋律ピノタージュ」として安心院葡萄酒工房で製品化されています。（数量限定販売）

© 紅葉谷昌代